

新 発 表

えだまめ新品種 美 園 グ リ ー ン

～ 特性と栽培上の要点 ～

雪印種苗中央研究農場

岩見田 慎 二

えだまめは、ビールのつまみ等として古くから栽培・利用されてきたが、近年、都市近郊の野菜栽培地帯やビニールハウス等の施設園芸地帯での作付けが増加し、さらに稲作転換事業の推進ともあいまって、その伸びは著しいものがあります。

また、ダイズが「畑の肉」と言われているように、その未熟種子を利用するえだまめも、蛋白質・ビタミンA・ミネラル等を多く含んでおり、栄養価が高く、ビールの大量消費とともに年々その需要が増えてきています。

輪作体系に有利なえだまめの栽培

えだまめは、

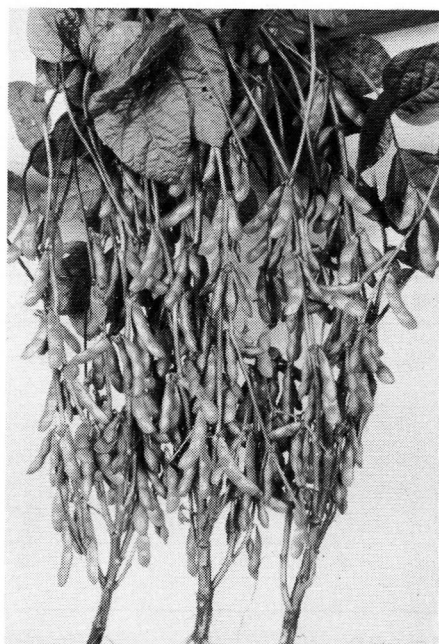
- 1) 生育期間が短いので耕地の利用効率が高い
- 2) 栽培が容易である
- 3) マメ科作物なので地力維持に役立つ
- 4) 生産費が少なく収益性が高い

などの、都市近郊地帯の野菜栽培における輪作体系にとって、好ましい条件を備えています。

えだまめの品種

えだまめの品種として望ましい特性としては、

- ①早生であること。② 莢の色が鮮緑であること。
- ③ 毛茸は白色でその数が少ないこと。④ 着莢が密であること。⑤ 食味がよいこと。等があげられ、弊社でも以上の点を目標に品種改良を行ない、「サッポロミドリ」、「ユキムスメ」等の品種を育成・発表し、各地で好評を得ておりますが、この度、白毛で特に毛茸の少ない新品種「美園グリーン」を育成し、新種苗法に基づく品種登録もなされましたので、以下、「美園グリーン」の特性、栽培の要点などについて紹介いたします。



美園グリーンの特性

本品種は、「ユキムスメ」の姉妹系統で、同じ交配組合せの中から、特に毛茸の少ない系統を選抜し、育成したものです。

1 「白鳥」なみの中早生種

草丈は、「白鳥」なみで、茎がやや細く葉も小さめですが、分枝数や葉数が多いため、草勢は良好で、「白鳥」や「ユキムスメ」と比べて見劣りしません。開花期や収穫期は、「白鳥」とほぼ同時期中早生種に属します。花色は白色で、子実は白目の黄色粒、100粒重30g程度の中大粒種です。

2 毛茸が非常に少ない

莢は、やや小ぶりですが、3粒莢が多く、色は

ゆであがりの美しい鮮緑色です。特に、毛茸が白色のうえに、その数が非常に少ないため、この点からもゆであがりの美しさが特長的です。また、食味もきわめておいしく、以上のように莢の品質においてはすばらしい特性を備えています。

3 着莢が密で安定多収

着莢は密で、3粒莢が多く、実入りも良い豊産種で、各地の試験で高い収量が得られており、その優秀性が示されています。

また、莢の退色が比較的遅いので、「白鳥」等にくらべて、収穫期間を長くとることができます。

栽培の要点

本品種は、開花後 30～35 日で収穫期をむかえる中早生種で、ビニールハウスによる促成栽培トンネルによる半促成栽培から露地直播栽培まで広い作型での利用が可能です。

1 播種および育苗 えだまめは、本来移植を嫌う作物ですが、ビニールハウスやトンネル等での栽培では育苗をします。また、近年では、鳥害等での欠株を防ぐために露地でも育苗移植栽培を行なうところが増えてきています。

発芽適温は、20～25℃で、特に2月上旬播種の促成栽培では、温床での育苗が必要となります。発芽後は、温度を20℃前後とし、換気や灌水に充分注意して苗の徒長を防ぐようにします。

播種量は、栽植密度によって決まりますが、10 a 当たりビニールハウスで12～16 ㍓、トンネルで8～12 ㍓、露地で8～10 ㍓が基準となります。なお、播種時にチウラム粉剤、VC T 粉剤等を粉衣しておく、立枯病や土壌病原菌による発芽不良（特に低温時）を抑えることができるので、種子消毒は必ず行なうようにします。

表1 低温発芽における種子消毒の効果

(昭和56年・中央研究農場)

品 種 名	発 芽 率	
	無 処 理	チウラム粉衣
サッポロミドリ	58.7%	85.3%
ユ キ ム ス メ	34.7	78.7
白 鳥	66.7	89.3

注) 低温発芽試験：10℃ 7 日間の低温にあわせた後常温(25℃)のもとで発芽率を試験する。

2 定植は早めに

定植は、育苗日数 20～25 日程度の、本葉の始めから1.5枚くらいの頃に行ないます。苗が大きくなるにつれて活着しにくくなるので時期を逃さぬよう注意が必要です。

栽植密度は、ハウス・トンネルで畦幅 30～45 cm 株間 12 cm 程度、露地栽培で畦幅 45～60 cm 株間 12～15 cm くらいが標準ですが、「美園グリーン」の場合は、前述のとおり茎がやや細めで若干徒長しやすく、分枝数も多いので、少し広めに植え付けると莢着きも良く多収となるので、広めの栽植密度をとるようにします。

3 施肥—窒素はひかえめに—

施肥量は、10 a 当たり成分量で窒素 5～10 kg、リン酸 10～12 kg、カリ 8～10 kg ですが、ビニールハウスなどでは、生育期間が短いこと、および初期生育を進めるために基肥を重視します。

また、窒素の多用は、徒長の原因となるので注意が必要です。特に、ハウスでは、前作の影響や残効を考えて、窒素過多は避けなければなりません。

4 管理—開花中の温度が収量を決める—

ハウスやトンネル栽培では、温度の管理が着莢を左右し、収量に影響する重要なポイントとなります。温度は、日中 20～25℃、夜間 10℃以上が適当で、特に開花期間中に 30℃以上の高温や 10℃以下の低温にあうと、着莢が極端に悪くなり低収の原因となるので、換気・保温には充分な注意が必要です。また、開花期間中の乾燥や過湿も莢着きに影響するので、水分の管理も大切な点です。

露地栽培では、倒伏を防ぐためにも中耕・培土が重要で、定植後 4～5 日から 2～3 回程度行ないますが、開花中の断根は悪影響を及ぼすので、開花の1週間前までに終了するようにします。

5 病虫害防除

1) ベト病：窒素過多や密植によって徒長したときや雨の多いときに多発します。マンネブ剤 500 倍液、銅水和剤 400～600 倍液を散布して防除します。

2) アブラムシ：ウイルス病を伝播するので、播種時、植付時にエチルチオメトン粒剤（エカチンTD、ダイジストン）を土壌施用、また、生育期

表2 えだまめ生産力検定試験(露地普通栽培)

(昭和55年 中央研究農場)

品 種 名	開 花 始	収 穫 期	主 茎 長	節 数	分 枝 数	1 株 当 たり 稔 実 莢 数	1 株 当 たり えだまめ収量	3 粒 莢 率
	月 日	月 日	cm	節	本	コ	kg	%
サッポロミドリ	7. 12	8. 20	28.4	7.9	2.1	46.1	74.8	32.2
奥 原 1 号	7. 14	8. 19	53.5	10.5	2.8	45.7	63.5	22.1
美園グリーン	7. 21	9. 2	48.2	11.7	4.9	68.6	126.7	27.2
ユ キ ム ス メ	7. 21	9. 3	53.1	11.8	4.4	57.7	111.7	26.4
白 鳥	7. 22	9. 4	53.0	12.1	4.5	64.1	120.3	25.2

注) 播種日 昭和55年5月22日, 栽植密度 60cm×20cm, 1株2本立

表3 えだまめ早生種品種比較試験

(昭和55年 郡馬園試北部試験地)

品 種 名	開 花 日	収 穫 日	茎 長	節 数	分 枝 数	10株当り 可 食 莢 数	10株当り 可 食 莢 重	3 粒 莢 率
	月 日	月 日 月 日	cm	本	本	コ	g	%
第1回 (5月9日播種)								
1. お 多 福	6. 16	7. 23~7. 28	17.6	6.9	6.1	257	695	17.9
2. 試 交 2 号	"	7. 18~7. 27	22.6	7.6	5.6	379	848	24.5
3. 流 氷	"	7. 18~7. 26	20.5	7.4	5.3	289	654	23.9
4. キタノミネ	"	7. 24~7. 29	26.9	8.2	6.4	417	1,116	26.4
5. 美園グリーン	"	7. 23~7. 28	22.5	7.9	6.5	384	1,017	14.8
6. ユキムスメ	"	7. 25~7. 30	22.0	7.8	6.7	357	1,095	13.4
7. えぞみどり	"	7. 23~7. 29	21.9	7.8	6.0	327	772	11.9
第2回 (5月19日播種)								
1. お 多 福	6. 27	8. 4~8. 9	33.0	10.0	8.1	554	1,345	26.5
2. 試 交 2 号	6. 24	7. 30~8. 5	28.5	8.4	7.4	469	975	26.0
3. 流 氷	"	7. 30~8. 4	29.4	8.5	7.4	544	1,201	26.5
4. キタノミネ	"	8. 4~8. 8	32.4	9.2	7.1	654	1,621	26.6
5. 美園グリーン	6. 26	8. 4~8. 8	43.1	11.0	10.4	673	1,845	27.2
6. ユキムスメ	"	8. 4~8. 10	41.0	10.7	7.6	688	1,707	24.4
7. えぞみどり	"	8. 4~8. 7	46.8	11.2	8.3	671	1,523	11.3

注) 定植 第1回 5月20日, 第2回 5月29日, 栽植距離70cm幅ベット, 条間45cm, 株間30cm

間中には、マラソン乳剤1,000倍液を散布します。

3) ハダニ：莢を吸汁したところが水浸状の微小な点となって残り，特に「美園グリーン」のように毛茸の少ない品種では，目立ちやすく商品価



値に影響するので注意が必要です。葉散は，クロルベンジレート乳剤(アカール)，キノキサリン系水和剤(モレスタン水和剤)の2,000倍等を使用します。

4) ヒメコガネ・サヤタマバエ・マメシンクイガ：MPP乳剤(バイジット乳剤) MEP乳剤(スミチオン乳剤), EPH乳剤の1,000~1,500倍液を2~3回散布します。

6 収 穫

開花後30~35日前後で収穫期となります。収穫期間は7日程度ですが，子実が肥大しすぎて固くなったり，莢の色があせてきたりすると市場性が悪くなるので，茎の上部に若干未熟莢がある程度のやや若穫りするくらいに収穫するようにします。